

2020年3月13日

12日の米国株の大幅下落と今後の見通しについて

3月12日の米国株市場で、ダウ工業株30種平均（以下NYダウ）は前日比▲10%と1987年10月19日（ブラックマンデーと呼ばれます）以来の大幅下落となりました。

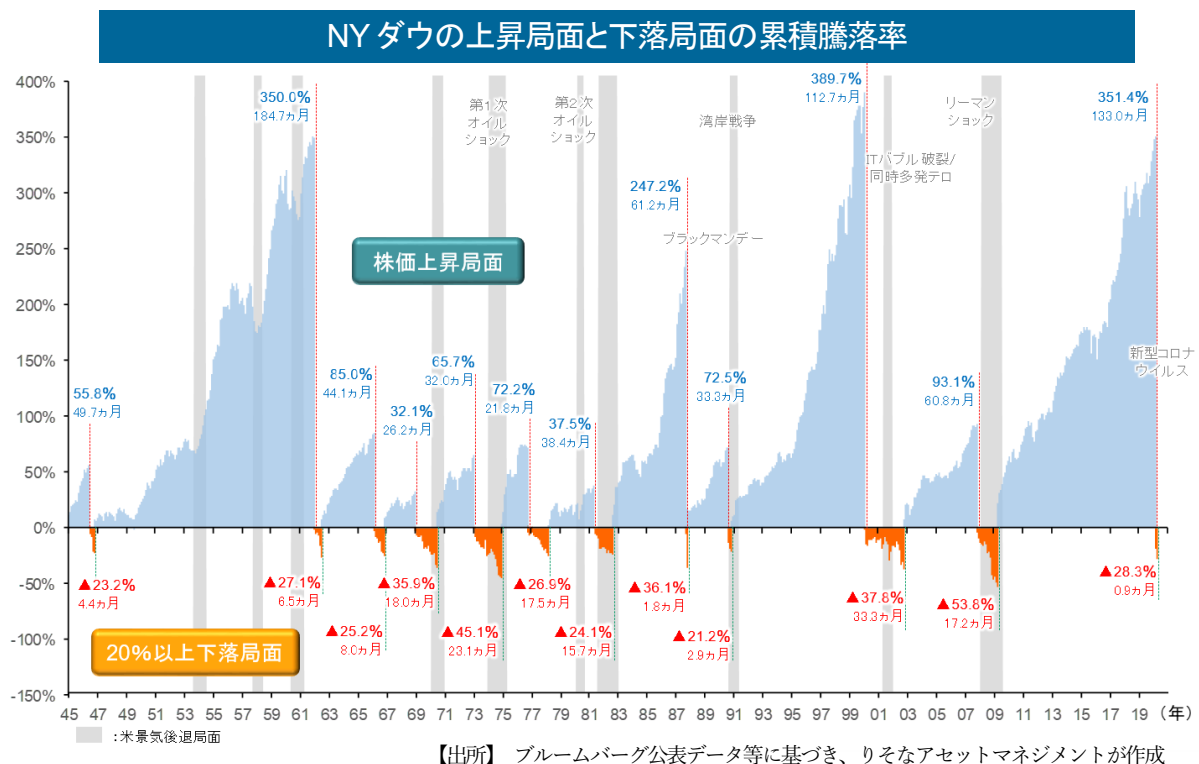
前日にトランプ大統領が発表した経済対策に対する失望や欧州からの渡航停止で生じる混乱が嫌気された格好で、市場は米政府・議会が大規模な減税措置など有効な経済対策を早急にとりまとめることを催促する動きと考えられます。

昨日時点で、NYダウは直近高値から28.3%の下落となりました。1945年以降でNYダウが直近高値から2割超下落した局面は今回で12回目です（下図をご参照ください）。過去11回の平均下落率は32.4%、金融危機を伴った08年のリーマンショック時を除く10回の平均では30.3%です。

過去の例を参考とすれば、米国の株価は既に2~3四半期程度の景気後退リスクは概ね織り込んだものと考えられます。

現在の水準から更に下値を模索するケースとしては、今回の新型コロナウイルス感染拡大が長期化し、リーマンショック時のように金融不安を伴う深刻な景気後退に発展する場合と考えられます。ただ、リーマンショック時との大きな違いは、金融システムの安定性が強化されている点です。また、FRB(米連邦準備制度理事会)からは先週の緊急利下げに加え昨日は新たな流動性供給策が発表されるなど、金融システムの安定化策が相次いで打ち出されています。

以上より、新型コロナウイルスの感染収束の見極め、および金融システムの健全性には引き続き細心の注意が必要ですが、現段階において株価の下値余地は限定的であると考えられます。



今回の新型コロナウイルス問題を鋭意点検し、みなさまの資産運用のお役に立てますよう有益な情報の提供に努めてまいります。

本資料は、りそなアセットマネジメント株式会社が投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。本資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。本資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資信託は、値動きのある資産を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします「投資信託目論見書（交付目論見書）」および一体としてお渡しする「目論見書補完書面」を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。